

# 熊谷の文化財

## 歓喜院聖天堂・貴惣門

熊谷の歴史の幕開けは、旧石器時代と考えられています。熊谷は長い歴史を経て産業・文化の各分野で地域の特色を育み、県北の中心都市として産業の発展と芸術文化の振興を進めました。

このような歴史や文化を伝える貴重な資料や美術品などが「文化財」と呼ばれるものです。国・県・市が指定した多様な文化財は、その地域の自然環境、歴史的に育まれた文化や人々の活動の歴史を明らかにする大切な財産であるといえます。

今回はその中から妻沼聖天山本殿の国宝「歓喜院聖天堂」と重要文化財「貴惣門」を取り上げます。江戸時代、熊谷は中山道の宿場町として栄え、秩父往還などの街道のほか、荒川・利根川には、渡船場や河岸があり、多くの人々が行き交いました。江戸時代中期に建てられた国宝「歓喜院聖天堂」は、棟梁の林兵庫正清・正信、高い技術を誇る上州の彫刻師集団、有名な狩野派の絵師たちの協力で約半世紀をかけて完成しました。極彩色彫刻と呼ばれる色鮮やかで、きめ細やかな彫刻が美しく、もう一つの日光東照宮とも称され高く評価されています。



重要文化財「貴惣門」



国宝「歓喜院聖天堂」

江戸時代末期に建立された重要文化財「貴惣門」は、妻沼聖天山の正門に当たる建物です。側面にある「破風」と呼ばれる部分が3つ重なる構造をしており、これは国内でも珍しい形をしています。最初から彩色の無い建物ですが、それを補うように極めて高い彫刻技術が用いられています。

時代を超えて受け継がれた数多くのこれらの文化財が、熊谷に輝きを与えてくれます。皆さんも文化財に関心を持ってみてはいかがでしょうか。

情報提供：熊谷市立江南文化財センター 山下 祐樹